

令和5年度 磐田市立豊田北部小学校 学校評価書

*各重点の評価(%)の平均80%以上をA評価、80%以下をB評価とする。

重点	目標・取組	評価指標	教師	子供	保護者	自己評	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学年学級経営 学校経営	学校教育目標に向けた取組 ・「夢をもち たくましく生きる子」の育成 ・北部っ子プライド「挨拶・挑戦・助け合い・聞いて・考え・伝え合い」	将来の夢や目標をもって、生活することができているか。	86%	89%	66%	B	○学校行事において、子供たちは自分のめあてに向かって意欲的に取り組んだ。また、本年度から6ステージ制にし、それぞれのステージの目標を常に意識して日々の活動に取り組み、毎回振り返りを行った。これらの取組により、めあてに対する達成感を味わえたことが、高い評価につながっていると思われる。一方で、教師や保護者の評価はやや低い。教師や保護者が願う子供の姿と、子供の自身の目指す挑戦する姿との間にずれがあることが分かった。 ※引き続き、自己のめあてをもって活動に取り組む姿を啓発していく。また、行事とキャリアパスポートをリンクさせていきながら、成長を価値付けるとともに、教師や保護者の目指す子供の姿と、子供自身が目指す姿を共有できるようにしていきたい。	○9年間を通した志づくりが必要。先生や先輩がモデルとなるようなお手本づくりを進めてほしい。 ○本年度から6ステージ制にし、目標に向かって取り組み、毎回振り返りを行うということは、素晴らしいです。 ○「たくましく生きる子」を子供たちにもっと浸透させていける様に対応してほしい。 ○教師や保護者は、過去の時代や長いスパンで物事を見るが、子供たちはそれができないので、評価にずれが出るのは仕方がないこと。 ○失敗をする経験させたほうがよい。失敗し、そこからチャレンジができるそういう環境づくりが大切。失敗の向こう側に成功やよい体験が生まれる。
		難しいこと・苦手なことでも失敗を恐れないで挑戦しているか。	64%	86%	62%			
授業づくり	学びを深めていく子の育成 ○校内研修テーマ「学びをつなぐ つながりで学ぶ～主体的に学習に取り組む子供の育成～」 ・つながりを意識した単元構想 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	大事な言葉を考えて自分でまとめを書くことができているか。	89%	83%	A	○校内研修では、自ら学びに向かい深めていく子の育成を目指して、「単元構想の工夫」「学習意欲の高まる課題設定や発問」「双方向的な対話」「学びの実感のできるまとめ」の4つの視点で授業改善を行ってきた。その結果、見通しをもって学んだり、友達と話すことで自己の学びを深めたりすることができた。また、「振り返り」により自分の学びを実感したり、次への課題を見つかりやすくなった。できた子もいた。 ※主体的に学習に臨んだり、必要感をもって対話を行っていくために、生活科交流学習や総合交流学習を進めていきたい。本年度、縦割り総合を行って来てチームや自分の課題を解決するために、同じチームの仲間たちと対話を繰り返したり、積極的に意見交換をしたりする場面が多く見られた。来年度はペア学年で行い、教科と連携させながら学習を進めて行くことで、主体的・対話的で深い学びの実現に迫ってきたい。	○学校における授業改善のおかげで、自分から行動できる子が育ってきているように感じます。 ○自分でやる事を、やらないといけない事を再認識させる授業であることよい。 ○自分独自の意見を思考でき、周りの意見も受け止められ、A案B案を足したC案を考えられる子供たちを育ててほしい。YESやNO、善悪2言論で思考停止しない子は、企業や社会で成功する。 ○受け身ではなく、主体的に動けることは、社会で必要なスキル。	
		授業で、自分の考えを伝え合うことができているか。	82%	89%				69%
		進んで聞いたり、自分で調べたりして学習しているか。	75%	83%				
仲間づくり	互いを大切にしていくなの育成 ・自ら進んであいさつができる ・互いを思いやり、励まし合うことができる ・人の役に立とうとしている	自ら進んであいさつができているか。	71%	86%	82%	A	○挨拶については、昨年度の反省も踏まえ、年間を通して意識の高揚を図った。ステージのめあての中に入れ、子供の意識を高められるようにした。委員会活動やPTA、学府合同の挨拶運動といった活動も活発に行い、良い表れは価値付けをしていった。そのため、「あいさつをしている」と感じる子が多くいたと感じている。しかし、実際の子供の姿を見たとき、多くの子が自ら進んで挨拶できているとは感じられず、教師と子供との認識に大きな差が見られた。 ○助け合うことや協力することについては、各担任の指導もあり着実に育まれていた。学級内だけでなく、縦割り総合や縦割り遊びにおいても、上学年が下学年に優しく支援する姿が多く見られた。 ※あいさつについては、教師がどんなあいさつができればいいか具体的なイメージを共有して、指導にあたっていけるようにしていく。そのうえで、ステージのめあて等を具体的に子供たちに示していくことで、共通のイメージをもち、あいさつの意識を高めていけるようにしていきたい。また、来年度は中学と合同で委員会活動を行って行く予定なので、小中子供達の中から、あいさつの広がりが見られるような活動を行っていけるようにしていきたい。	○あいさつ活動を続けている成果が出ていていると思います。 ○あいさつ、思いやり、助け合い、ルールを守る、協力する雰囲気を作るのは社会でも必要なスキル。 ○気持ちのよいあいさつをすることは、かなり前から取り組まれていることと思うので、数値に関わらず常に意識させていきたい。 ○あいさつは社会人として当たり前という意識を。子供として扱いすぎないことも必要。 ○学校で意図的に縦割り活動することが必要な時代に来ていると思う。地域で自然発生的に増われればなってきた。
		相手を思いやり、助け合って生活することができているか。	96%	91%	96%			
		互いにルールを守り、協力する雰囲気があるか。	96%	87%	94%			
家庭・地域・一校との連携	地域とつながる学校 ・地域のもの、人と進んで関わる態度の育成 ・学校と家庭との連携 小中がつながる学校 ・中学校とのつながり	地域の人たちと、学校や地域で関わっているか。	75%	83%	84%	B	○コロナ感染症が第5類となり、多くの活動が制限なく行えるようになってきた。東小との交流や、豊田中との交流活動については、以前に比べ活発に行われるようになった。しかしながら、地域との交流については、以前とあまり変わっていないのが現状である。 ○学校からは、学校だより・学年だより・HP等で、積極的に情報を発信したり、端末を活用したアンケートで保護者の声を聞いたり情報共有に努めてきた。 ○豊田中との交流は、授業や音楽祭、イベントやスタディサポート等、多くの交流活動が行われた。数値が低い原因としては、日常的に中学生といる環境から、もっと中学生と関わりたいという認識が子供達の中にあるように感じている。 ※地域との交流については、コミュニティースクールディレクターと協力し、学習の効果を上げる一環として、地域の方を講師に招いたり、地域の施設に見学したりする機会を増やしていきたいと考えている。 ※小中交流については、現在行っている活動を継続していく。さらに、新たに行っていく小中合同委員会活動を充実させていくことで、さらなる交流の発展へとつなげていきたい。	○小中一校校を生かして、いろいろな交流が行われたことは、素晴らしいと思いました。地域活動については、子供たちが一生懸命活動をしています。 ○児童、生徒、教員がつながることがとても重要であり、小中一貫校の強みなので、保護者や地域とつながる機会をこれからも増やして欲しい。 ○管理等の課題はあるが、放課後、安全に遊べる場所として、学校のグラウンドが有効活用できることを住民として望む。 ○6月下旬の土日に、池田地区の防災講座を計画しています。小学校4～6年生を対象に計画していますが、参加募集に関して、学校の協力をお願いします。
		学校で目指そうとする子供の姿や教育方針について保護者に伝えているか。	93%	82%	64%			
		豊田中の生徒と、交流している。(子供) 小中の枠を越えて、職員同士が交流をしている。(職員)	46%	64%				

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校評議員の方の助言から、社会に出た時のことを考えた指導や学校運営の必要性を実感した。現在当たり前に行っていることも、10年後に社会に出た子供たちのことを想像しながら年度途中でも変えるべきものは変え、よりよいものにしていかなければ急激に変わっていく今の社会に対応できないと思った。本年度、職員全体で考えていった教育課程をもとに、今回の助言を生かしながら来年度の学校運営に生かしていきたい。